

森林と大地と人が輝くまち

しもかわ GIKAI

No.198

令和4年

11



10月17日 町内所管事務調査(浄水場建設現場)にて

| | |
|---------------------------------|-------|
| 9月定例会議「ゼロカーボン推進事業等に係る経費を原案可決」ほか | 2～3 |
| 令和3年度各種会計等決算認定審査 | 4～5 |
| 一般質問「下川のここが聞きたい」5名の議員が登壇 | 6～11 |
| 7月臨時会議、下川町議会脱炭素推進調査特別委員会経過報告 | 12～14 |
| 文書質問 | 15 |
| 議会活動の仕組み⑤「所管事務調査」、編集後記ほか | 16 |

表紙の写真 「令和4年度総務産業常任委員会町内所管事務調査」より

しもかわ議会だより

9月定例会議のあらまし

昨年より決算認定審査を9月定例会議中に行うこととしたため、会議日数が例年より増え、令和4年9月12日から22日までの11日間開催しました。

町から、条例改正や各会計補正予算などが提案され、全て原案可決。令和3年度各種会計等決算認定については認定としました。

議員提出の意見書1件を可決し、一般質問では5人の議員が町長に考えを伺いました。

9月 定例会議 9/12~22

◆ゼロカーボン推進事業・高齢者応援事業・地域産業活性化支援事業等に係る経費を原案可決

9月定例会議では一般会計補正予算（第5号）が提案され、総務産業常任委員会に付託し審議を行いました。

主な補正内容は、新型コロナウイルス感染症対策、緊急を要するものなどに伴う補正であり、高齢者応援事業に係る経費、新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業に係る経費の他に、森林づくり基金等管理事業に係る経費等を計上し、歳入歳出それぞれ5,989万円を追加し、総額を54億9,703万円とするものです。

委員会審査の質疑では、宿泊研修交流施設（結いの森）運営事業について「8月30日にボイラーが故障し、宿泊者には影響がなかったか」に対し「道内に在庫があったため、8月31日に設置し宿泊者への影響は最小限に抑えた。現在、施工業者と原因究明等を協議中である」

「農業研修道場運営事業について「ビニールハウスの劣化とあるがどれくらい使用しているのか」に対し「平成29年に設置し、令和元年9月に使用終了以降、ビニールは巻きっぱなしであった。維持の仕方に難があったと思う」地域産業活性化支援事業について「東京23区在住者が下川に移住すれば対象になるのか」に対し「地域産業活性化支援事業のテレワーク移住については条件が厳しく、自分の意思で移住して仕事を継続していること、道の起業支援事業の決定を受けた人が条件」との答弁がありました。

これらの審査を踏まえて、総務産業常任委員会から次の意見が付されました。

○ 農業研修道場運営事業では、数年にわたりメンテナンスを怠ったことで短期間に張り替えることになったことは明確である。定期的なメンテナンスを怠ることなく長寿命に努めること。

○ 新規就農の受け入れに際しては、バックアップ

体制の充実を図り、ケアに努めること。

○「学校給食共同調理場」と「ふるさと交流館」での会計年度任用職員2名分の報酬を計上しているが、学校給食共同調理場においては、場長の配置についての方針をしっかりと示す

すべきである。ふるさと交流館においては、施設の有効活用の観点から人員確保を急ぐべきである。本会議での採決では、全員賛成により原案可決しました。



総務産業常任委員会開催中の様子





【YouTube】QRコードを読み取ると本会議の映像が見られます。



(動画時間) 59分
8:24 議案上程



(動画時間) 59分
5:21 委員長報告 (総産)
13:39 委員長報告 (決特)

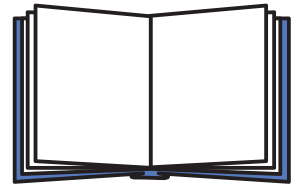
9月定例会議の審議議案と議員の賛否（令和4年9月12日～9月22日）

| 議案の件名・概要・結果 町長提出議案：□ 議員又は委員会提出議案：△ 賛成：○ 反対：× 欠席：欠 | | 結 果 | 斉 藤 好 信 | 中 田 豪 之 助 | 大 西 功 | 春 日 隆 司 | 我 孫 子 洋 昌 | 菘 谷 春 之 | 小 原 仁 興 | 近 藤 八 郎 | 議 決 日 |
|---|--|--------|------------------|-----------------------|-------------|------------------|-----------------------|------------------|------------------|------------------|-------------|
| <input type="checkbox"/> | 下川町議会議員及び下川町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例 | 可 決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 9月12日 |
| <input type="checkbox"/> | 下川町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例 | " | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| <input type="checkbox"/> | 令和4年度下川町下水道事業特別会計補正予算（第2号） 補正額：124万円 補正後の額：3億7,752万円 補正内容：下川浄化センター汚泥処理施設の修繕に伴う需用費の増額 など | " | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| <input type="checkbox"/> | 令和4年度下川町簡易水道事業特別会計補正予算（第3号） 補正額：132万円 補正後の額：5億5,667万円 補正内容：消費税納付税額の確定に伴う積立金の増額 など | " | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| <input type="checkbox"/> | 令和4年度下川町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号） 補正額：17万円 補正後の額：5億4,343万円 補正内容：国保事業報告システムクラウド改修に伴う負担金の増額 など | " | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| <input type="checkbox"/> | 令和4年度下川町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号） 補正額：28万円 補正後の額：6,702万円 補正内容：医療費窓口負担割合変更に伴う役務費の増額 など | " | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| <input type="checkbox"/> | 令和4年度下川町病院事業会計補正予算（第2号） 補正額：病院事業費用 37万円 補正後の額：5億7,629万円 補正額：資本的支出 78万円 補正後の額：4,684万円 補正内容： 既存照明機器をLED照明に切り替えるためのリース資産購入費を計上 など | " | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| <input type="checkbox"/> | 教育委員会委員の任命について（栢田 ともみ 氏） | 同 意 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 9月22日 |
| <input type="checkbox"/> | 令和3年度決算に基づく下川町健全化判断比率及び資金不足比率の報告について | 報告済 | - | - | - | - | - | - | - | | |
| <input type="checkbox"/> | 令和4年度下川町一般会計補正予算（第5号） 補正額：5,989万円 補正後の額：54億9,703万円 補正内容：多目的宿泊交流施設の暖房器具取替に伴う備品購入費を計上 など | 可 決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| <input type="checkbox"/> | 令和3年度下川町各種会計歳入歳出決算認定について | 認 定 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| <input type="checkbox"/> | 令和3年度下川町公営企業会計決算認定について | " | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| △ | 下川町議会脱炭素推進調査特別委員会中間報告 | 報告済 | - | - | - | - | - | - | - | | |
| △ | 国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書 | 可 決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |



ことば

ふ たく
付 託・・・ 本会議で議題となっている案件について、質疑が終了した後さらに詳しく検討を加えるために、所管の常任委員会や特別委員会などに審査を委託することをいいます。



令和3年度各種会計等 決算認定審査

令 和4年9月15日から21日の4日間にわたり決算認定特別委員会を開催し、令和3年度各種会計などの決算内容を審査しました。21日には理事者の出席を求め質疑、委員間討議を行い、各種会計並びに公営企業会計決算は、いずれ

委員会審査：9月15, 16, 20, 21日(4日間)

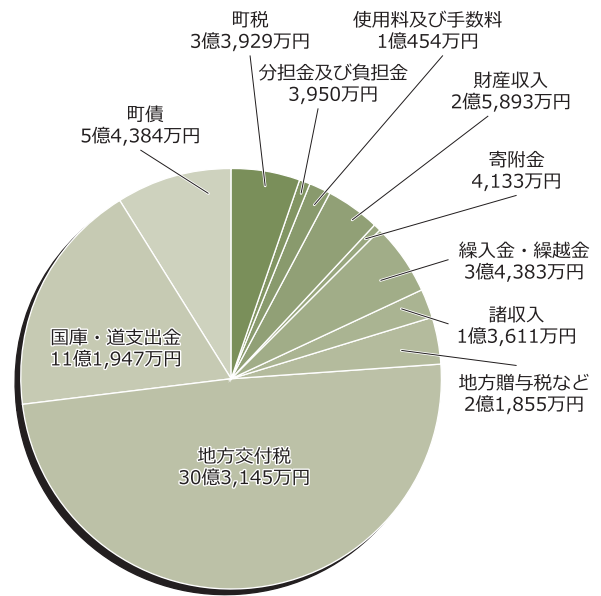
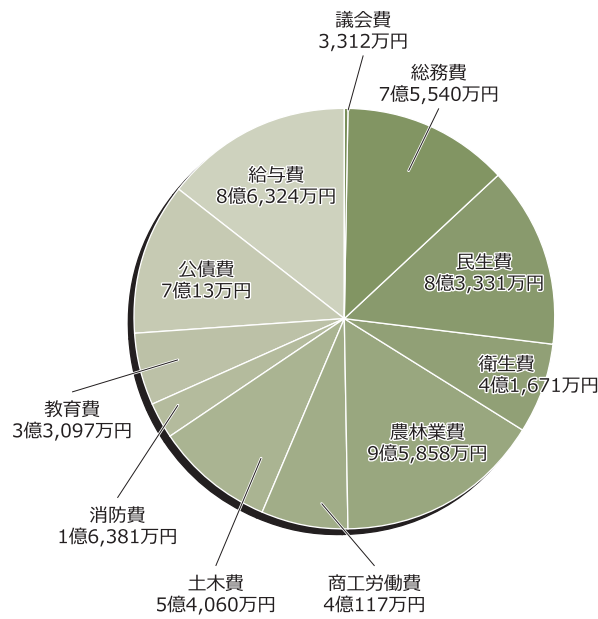
委員 長： 荻谷 春之 議員
副委員 長： 大西 功 議員

も認定すべきものと決定しました。決算の概要については、一般会計は、歳入が61億7,684万円となっており、増加の内訳は地方交付税及び基金の統廃合によるものです。歳出は59億9,704万円となっており、前年度と比較して8.4%の増加となっており、内訳は社会的資本の整備に要する経費である投資的経費の27%増加が主な要因です。財政構造は、経常収支比率は85%（4年連続減少）、実質公債費率は6.2%（5年連続増加）、将来負担比率は9%（3年連続減少）となっております。基金現在高は3年連続で増加し、14億5,529万円となっており、特別会計を含めた基金現在高は16億8,233万円となっております。要因としては、大きな投資事業が無かったことや、コロナ対策による交付税の増加、縮小した事業による減額要素とのバランスによるものです。委員会審査での説明の主なものは次のとおりです。

歳出総額 59億9,704万円

一般会計

歳入総額 61億7,684万円



基金現在高 14億5,529万円(対前年度比29.4%増) / 地方債残高 59億2,061万円(対前年度比2.1%減)

説明
(総務課) 業務量が増えているが、整理廃止することのできない。また人員補充もできないため大変である。
(政策推進課) 各種事業や施設管理など幅広く担当しており、事業が重なること厳しい状況である。以前より業務量が増えている、目的を絞った仕事をしていく必要がある。
総合計画、ゼロカーボン実行計画、中小企業の事業承継の見直しなどの課題を積極的に進めていきたい。
(税務住民課) 宅配等事業は、道総研との共同調査で「宅配業者の荷物が増加している」との報告を受けたこと、町内スーパーの廃業により買い物が不便になるとの声があつたことで、事業検討を開始した。
(保健福祉課) 保険料収納率の向上の要因は、税務住民課の担当者の努力に加え、年金からの徴収がある。
(あけぼの園) 施設内の備品は耐用年数を大幅に超え

て、入れ替えなければなら
ないものもある。使えるう
ちは継続して使うが、金額
が大きくなりそうなものは
更新計画に入れていきたい。

(山びこ学園)利用者の平
均年齢が55歳を超えたこと
により、病気のリスクが高
くなっている。利用者の体
調管理や、夜間の受診への
対応に向けた体制整備をし
ていきたい。

(農業委員会・農林課)農
業振興地域整備計画や「人・
農地プラン」の見直しなど、
業務量とスタッフの関係は
厳しいが、業務委託を含め
執行していきたい。
農産物加工研究所の民間
移行については、公設民営
形式での交渉を継続中であ
る。

(建設水道課)コロナ禍な
どにより、工事資材の高騰
や入荷遅れのために工事が
遅れた。業者間との連絡を
密にし、町民に丁寧に説明
をして支障が無いようにし
たい。

(教育委員会・教育課)老
朽化している所管施設の取

り扱いと、文化財の管理運
営について課題がある。

(町立病院)一般会計から
の補助金(2億4千万円)
に頼っているが、交付税措
置で1億7千万円あるため
7千万円程が一般財源から
の支出となっている。

病院の経営強化プランを
令和5年度中に策定するた
めに、理事者と相談して進
めたい。

理事者総括質疑

理 事者へ次の項目につ
いて一括質疑を行いま
した。

・循環型森林経営の現状と
将来展望

・除却予定の町営住宅の再
利用

・プライマリーバランスの
黒字化の考え方

・ふるさと納税の考え方

・未収金の解消

・地域担当職員制度の見直
し

理事者への質疑を踏まえ、
決算認定特別委員会として、
各担当課所管の決算において
指摘した意見のほか、次の
意見を強く付しました。

1. 町の基幹産業である林
業林業分野や、常に人
材不足の状況にある福祉
分野において、現在、農
業分野で新規就農者の研
修に用いている「地域お
こし協力隊制度」を、こ
れらの分野での人材確保
に向けて積極的に活用を
図るべきである。

2. 旭川農業高校森林科学
科へ進学する下川中学校
卒業生に対する奨学金、
または在学中の生徒への
支援制度を設置すべきで
ある。

3. SDGs 未来都市計画
で掲げていたもののうち
大学や研究機関と連携し
て作成予定の指標等につ
いて完成が遅れているが、
「ありがたい姿」の実現に
向けて完成を急ぐべきで
ある。

4. 町内で歯科受診ができ
ない状況を解消するため
民間の歯科医院の開業支
援、あるいは直接歯科診
療設備を導入した体制を
図るべきである。

5. 公共施設については、
グランドデザインを示し、
建設、統廃合、解体、廃
止などの議論を加速すべ
きである。

6. 循環型森林経営につ
いては、半世紀にわたり様
々な課題を踏まえ、機会
あるごとに森林を取得し、
平成26年に「50杉×60年」
サイクルが確立した。そ
の後、担い手確保を含む
課題の中で、今日そのサ
イクルが崩れてきている。
これまで半世紀にわたる
経過経緯を踏まえると、
林業の町として根幹をな
すものであり、堅持すべ
きである。よって、関係
団体等と連携を密にして
諸問題の解決を図るべき
である。

7. 農産物加工研究所の民
間移行については、情報
等を共有し、移行に向け
て問題が発生しないよう
留意すべきである。

8. 「半農半X」のパツケ
ージを農林課、建設水道
課、政策推進課等の各課
共同プロジェクトとして
推進すべきである。

9. 行政改革、事務改善の
遅延とコミュニケーション
不足等によって、今日
的課題解決を遅延させて
いる。これらの課題解決
を図るには、まず課題の
所在を明確化させ、これ
らに対応しうる組織体制

整備を断行する必要がある。
特に重要課題である
人口については、動態を
注視しながら課題認識を
共有し、各セクションに
より総力をもって解決を
図っていくべきである。

10. 行政改革大綱の見直し
として、使用料・手数料
の見直しに着手すること
が必要である。

11. 下川町の特産品として
定着している手延べ麵製
造業者に対する行政支援
を喫緊の課題として対応
していくべきである。

12. 行政組織の整理統合を
図り、職員不足の解消で
働き方改革を進めること
が必要である。

13. 平成16年に策定した
「地域自律プラン」につ
いて、現在の下川町の姿
を検証して、その方針か
ら異なる状況や新たな課
題について、町民と情報
共有すべきである。

※半農半X

(はんのうはんエックス)
：農業と他の仕事を組み
合わせた働き方。

下川のここが聞きたい 一般質問

9月定例会議では5名の議員が一般質問を行いました。
町のさまざまな課題などについて、議員が町に考えをたずす「一般質問」。
質問方法は『一問一答方式』です。（下記参照）



かすが たかし
春日 隆司 議員
(7ページ)



(動画時間) 58分

(質問事項)

- 下川が下川でありつづけるため、今、何をなすべきか



なката ごうのすけ
中田 豪之助 議員
(8ページ)



(動画時間) 40分

(質問事項)

- 働き方改革と人材育成について



おばら よしおき
小原 仁興 議員
(9ページ)



(動画時間) 29分

(質問事項)

- 「ふるさと納税」について



あびこ ひろまさ
我孫子 洋昌 議員
(10ページ)



(動画時間) 58分

(質問事項)

- 「第2期下川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の現状について
- 各世代の子ども施策について
- 町民からの意見への対応について



さいとう よしのぶ
斉藤 好信 議員
(11ページ)



(動画時間) 50分

(質問事項)

- 公共施設等の管理の方向性について
- 投票環境の向上について
- 町民の生活を守る対策について

※質問番号順



【YouTube】QRコードを読み取ると各議員の一般質問の映像が見られます。

- ・ 質問と答弁を要約して掲載しておりますので、詳細につきましては、下川町ホームページにある本会議会議録をご覧ください。
- ・ 一般質問を録画したDVDを町民会館図書室で貸し出しを行っています。
- ・ 下川町ホームページ（本会議会議録）はこちらから
※公開には一定の期間を要することがあります。



ことば

いちもんいっとうほうしき
一問一答方式… 1つの質問ごとに理事者が答弁を行います。質問回数に制限はなく、質問時間は一議員1時間を限度としています。



かすが たかし
春日 隆司 議員

職員との意思疎通がしっかり 図られているか

町長 メッセージが伝わっているか、聞いて
みなければわからない

職員との意思疎通

質問

町長は「日本一幸せ。挑
戦し続ける。その気に
させる」など、アクセラを踏
んでいる一方、「限界がある。
一定程度充足している。突出
して下川だけ何かやるのでは
ない」とブレーキをかけてい
ます。職員はエンストを起こ
しているのではないでしょ
うか。町長と職員間で意思疎通
がしっかり図られていますか。

町長 まだまだ不足をしてい
ます。円滑な上下関係を作っ
ていけるようにと考えていま
す。私のメッセージがどの程
度伝わっているか聞いてみな
ければ分かりません。

行政の停滞による影響

質問

職員との意思疎通が無
く、行政改革は2年遅れ。地
方創生計画は1年遅れ（遅れ
は下川町と上川南部の一町だ
け）ゼロカーボン計画は3年
遅れました。町政は停滞しま
した。影響は無かったですよ
うか。

町長 そういう考え方もあ
るかと思えます。

再質問 ゼロカーボンの取り
組みが3年遅れなければ、森
林組合の建物が4分の3の補
助を受け、約1億円の財源が
ほかの事業に振り向けられま
した。

町長 補助金ありきで物事は
進めていません。

再質問 コロナ対策の現実を
見てください。全て補助金あ
りきです。

人口流出の主な子育て 世代と子ども達

質問

町長は「人口対策は最
重要課題。子育て世代を中心
に積極的な移住政策を図る。
政策形成をしっかりとしてい
なければ人口動態にも影響す
る。新しい考え方を導入する
政策形成をしっかりと」と
主張しています。令和元年4
月の人口3,274人。現在
の人口3,044人で230
人減少。転出者の4人に3人
が子育て世代と幼児、小学、
中学で160人が転出してい
る認識はありますか。

町長 人口問題は、本町また日
本にとって重要な課題です。

再質問 子育て世代と子供た
ちへの政策形成がされたかが

論点。下川のような町がある
か調べて報告してほしいと思
います。

人材流出と育成

質問

D G S 未来都市の町
外の評価有識者から「下
川町の人材流出の衝撃は大き
い。検討が必要。背骨を担え
る人材育成が必要だ」と指摘
されています。4年間、職員の
人材育成をしてきましたか。

町長 研修、関係機関へ派遣、
ミーティングの活発化が人材
育成につながっています。職
員の評価は確認していません。

農業者支援

質問

美深町では配合飼料価
格支援給付金を支給します。
認定農業者以外も含め支援す
べきです。

町長 検討したいと思えます。

森林経営の立直し

質問

町長は町外では「循環
型森林経営が確立し順調に進
んでいる」と言っているよう
です。昨年の植林は22畝。完

全に崩れています。原田元町
長の言葉を引用すると「思い
がないと誰もやろうとしなく
なるのが民有林の特色。町有
林にあつては、それはあつて
はならない」現状を踏まえ総
合計画の反省点として、しっ
かり見直しすべきです。

町長 しっかりと議論して
いきます。今後問題提起をしな
がら進めることができるので
はないかと思っています。

2年遅れた行政改革

質問

2年遅れた行革で何を
重点に、いつまでやるのでし
ょうか。

町長 将来に向け、行革が必
要なものを議論したいと思っ
ています。

再質問

公共施設をどうする
とか、何を重点的にやるか、
町長の中で明確なものは決ま
っていないのでしょうか。

町長 行革本部や民間委員の
意見も聞きながら進めてまい
りたいと考えています。

再質問

日本や北海道を見る
ことも大切だが、下川町の実
態・現状をしっかりと把握して
下川町第一に考えていただき
たいと思えます。

ワークとライフ、ワークの魅力を引き上げるのが指導者

町長 私の能力の範囲で出来るだけのことを今進めている



なかた ごうのすけ
中田 豪之助 議員

働き方改革と人材育成について

質問

一、①これまでに何を実行しましたか。

②これから先何をしますか。これからの目標、いわばゴールはどうですか。

二、グループ制は現在機能していますか。また、所属長はグループ長の人事配置を把握していますか。

三、人材育成の目的から、自主、委託を問わず、職員研修制度を充実させる考えはありますか。

町長 一、①事前命令の徹底による時間外勤務の適正化、業務システム等の導入による業務の効率化、台帳等の電算化による省力化、ペーパーレス化の推進などです。

② 仕事と家庭の両立のため、ワークライフバランスを意識した働き方に取り組みます。

③ 目標、ゴールには、最終地点はなく、一定の取り組みを終えた後も、情報収集に努め、継続的に取り組みます。

二、業務が高度化・複雑化する中、限られた職員数で業務を効率的に行う必要があり、グループ制により柔軟な対応が可能となっております。

三、職員研修計画に基づき実施。委託研修は、基礎研修、初級研修、中級研修の他、一般研修、能力開発研修、専門実務研修など。町の独自研修、職員の自主参加研修なども実施しています。

再質問

仕事には締め切りがあります。今日中、明日まで、来週の月曜日までなど、それを明確にして時間配分をして行うことがワークライフバランスの実現につながります。課長、主幹、主査、各担当別に仕事の締め切りは、今日中なのか、今月中なのか、そのような調査や分析をしたことがありますか。これは何割、あれは何割、産業型で何割、事務系では何割、そのようにお答えください。

町長 所掌や業務内容によって、一概にパーセンテージで表すのは難しいです。

再質問

仕事の締め切りの分析、これは行政改革、デジタル化の基本中の基本です。先ほど働き方改革について、例えば時間外勤務については、業務の効率化、各種台帳の電算化による省力化、ペーパーレス化の推進など改善に取り組んだと答弁がありました。それらにより、ワークライフバランスの実現に寄与したのかお尋ねします。

町長

締め切り、あるいはまた出さなければならぬ期日、こういうところをしっかりと共有しながら進めていくことが大事と考えます。

再質問

今から年末にかけて、本町では残念ながら中途退職者が出る季節です。主幹、主査は業務の負担も心身の負担も多いと思います。過去10年の中途退職者は何人でしょうか。退職日付けと当時の主幹、主査など、そのようなデータがあればお示しください。総務課長 過去10年間の中途退職者は、全体で51名。

3月31日付けが最も多く、23名。その他の退職日はまちまちで、課長6名、主幹6名、主査10名、主任2名、係27名。このうち施設の職員につきましては、28名です。

再質問

町長がつぶさに現状把握し、自らプロジェクトチームを率いて、職員の得手、不得手、やる気、あるいはやる気のなさを体得する必要がありますと考えます。

「やってみせ、言ってみせて、させてみせ、ほめてやらねば人は動かじ」という言葉があります。

下川町にはSDGsだけではなく、こういうリーダーや先輩がいる、そういう庁舎になってほしいと切に希望します。

町長

若い職員には研修などを終えた後に、町長室に招いて、報告を受けたり、研修の反省点など文書で出していただく、そういうことを進めながら、よりよい行政運営ができるように汗をかきたいと思っています。



お ばら よしおき
小原 仁興 議員

目標額1億円は堅持しているか

町長 堅持されています

ふるさと納税について

質問

町長 長は令和3年にふるさと納税の目標額を1億円と公言しました。この目標額は今も堅持されているものなのか伺います。

町長

堅持されています。現在そういう進め方をしているところです。

再質問

目標は堅持されているとのことですが、目標に向かってやりますよと職員にアナウンスしたということでしょうか。

町長

仰るとおりです。

再質問

本年度のふるさと納税は現時点でいくらなのでしょうか、現下の状況から町長の所感があれば併せて伺います。

町長

令和4年8月時点で803件1,929万5,000円の寄附をいただ

います。今年度におきましては、PRサイトの更新などプロモーション活動の充実と下川町商工会と連携しながら新たな返礼品開発を鋭意進めています。

再質問

企業とのコラボ商品を考えているようですがもう少し詳しく答弁してください。

政策推進課長

今まで単品として提供していた返礼品の特色を生かしたセットとして一緒に出していくよう、食べ比べ的なものも含めて現在企画・検討しているところです。

再質問

近年、企業のふるさと納税の意識も大変高まっています。その町の特徴に対して寄附される、そのようなことが多く見受けられるようになりました。そこで、本町のふるさと納税を選んでいただく売りは何か伺います。

町長

現

在ホームページを中心にPRを進めているところです。本町の特徴である循環型森林経営を基盤に、森林バイオマスの取り組みやSDGsの取り組みを中心に引き続き企業等にPRするなど汗をかきたいと思えます。

再質問

ホームページでPRしていくということでした。ホームページのどこを見れば下川町の売りだとわかるのでしょうか。

政策推進課長

下川の売りとしては循環型森林経営を基盤に森林バイオマスの取り組みやSDGsの取り組みを中心にPRをしたいと思っておりますが、企業によってピットリと理解を得ることは難しいことから、下川町としては下川版SDGsの7つのありたい姿につながる事業にご支援いただきたいということですので。

再質問

北海道の企業版ふるさと納税額は38億円、日本全体で225億円ふるさと納税金額が動いています。町長の1億円の達成目標は絵空事ではなく達成可能な金額であると思います。そこで企業版ふるさと納税を促す中で、下川町循環型森林経営について説明する資料が入っているのでしょうか。

政策推進課長

企業版ふるさと納税については、寄附を募集する事業については簡潔に表現されていますが、下川町の取り組みについては、ホームページ内のリンクでご覧になっていただく形になります。

町長

1億円に向けて様々なシステム、あるいは情報発信、このへんに努めたいと思いますのでご理解いただきたいと思います。

町外へ進学する生徒にも支援策を講じるべきでは

町長 現在考えていません。
商業高校の存続が大命題です。



あびこひろまさ
我孫子 洋昌 議員

「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の見直し

質問

①人口減少の原因は、施策の効果が無かったからか、それとも施策が実施できなかったからですか。

②総合戦略に「人口減少と町民所得の減少は関連する」との記載がありますが、現状をどう認識しますか。

町長 ①2025年の目標人口(2,849人)達成に向け、更なる移住定住施策、基幹産業の振興などを積極的に進めたいと考えます。
②このまま少子高齢化や人口減少が加速すれば、地域経済の縮小や雇用の場も減少し、特に若者の流出を懸念しており、大変厳しい状況だと認識しています。

再質問

目 標人口は、施策ごとに、どの世代を何人、維持する、雇用するという数を積み上げたものですか。

町長 今年の1月から3名しか出生していません。社会環境が様々変化する中で、正確な目標値を作るのは適わないところがあります。

子ども施策

質問

①「就学前子どもの教育・保育等に関する条例」では、育児休業後に復職する保護者の規定がありますが、非正規雇用の方の多くは、出産を機に退職するため対象外です。条件を緩和して、必要とする保護者が誰でも預けることを可能にすべきです。
②B&G海洋センターで、プールのオムツを着用した幼児が利用できない状況ですが、受け入れを検討しますか。
③町外の高校に通学する生徒について、町は経済的支援をしない考えですが、生徒や保護者へ聞き取りを行うべきです。

町長

①子どもの受け入れは国の基準を踏まえた運用となることをご理解ください。今後も保育士の体制を整え、保育支援環境、子育て支援の充実を図るよう努めます。

教育長

② 昨今のプール用オムツ、例えば専用スリムな吸収体が使われているオムツであれば、漏れのある程度防ぐものと考えます。
そこで、幼児用プールでの使用に限定すること、オムツの上に水着を着用すること、使用後はセンター内に廃棄せず持ち帰ることなどの利用条件を周知し、守っていただくことを前提に受け入れること、各委員の意見も参酌しつつ、来年度のプール開きに向けて検討したいと考えます。

③下川商業高校の存続のため、魅力ある学校づくりの活動支援や、入学者確保と在校生への支援を継続する必要があります。町外の高校に通学する高校生への支援は現在考えていません。

再質問

③下川商業高校を選んだ理由を、「町外の高校への進学に関する支援制度が無いから」という町内の生徒はいませんか。

教育長 そのような話は聞いたことはありません。

町民からの意見への対応

質問

広報「知恵の環」欄に掲載された「病院での受診後にハイヤーが手配できなかった件」への対応はどのようなものですか。

税務住民課長 投稿者ご本人に直接文書で回答しています。

病院事務長 今回の知恵の環で初めて実態を知った状況です。受付窓口と外来看護師に情報共有したいと思っています。

再質問

町民の意見や考えが町の取り組みに反映されて、ひとつひとつ課題を解決していくことは、職員のやりがいの向上にもつながると思います。それとともに住民の満足感も高まるのではないのでしょうか。





さいとう よしのぶ
齊藤 好信 議員

公共施設等の利活用や統廃合など、方向性を示し議論を進めるべき

町長 全ての施設を維持、更新していくことは困難であり、方向性を協議したい

公共施設等の管理の方向性について

質問

役

場庁舎を含め町の施設等は耐用年数の経過に伴い老朽化が進んでいます。これら公共施設等の利活用や統廃合、そして遊休地の活用についても、一定程度の方向性を示し議論を進めるべきと考えますが町長の見解を伺います。

町長 これらの公共施設は現在、建築後40年から50年余りが経過し、老朽化が進んでいる状況です。今後、大規模な修繕や建替えなどの更新時期を迎えますが、全ての公共施設の数と規模を維持管理し、更新していく事は困難です。

総合グラウンド、サンルダム事務所跡地などの遊休地については、冬季の雪捨て場等の利用も考慮しつつ、空き地の有効活用により、一部の土地は宅地として売却を進めています。今後も宅地

分譲や未利用地の貸付など円滑に実施していくよう努めるとともに、公共施設の統廃合や建て替えの検討、方向性を協議したいと思います。

再質問

職員のアイデアや意見等を踏まえて協議を進めると思いますが、やはり町長の方針を明確にするべきだと思えます。

町長

現状をしっかりと認識することを先行して指示しています。財源も含めて、コミュニケーションをしながら方針をしっかりと定めていきたいと思っています。施設の民間移譲など、スピードを少しでも上げられるように汗をかきたいと思えます。

再質問

将来的には小学校と中学校の統合も現実味を帯びてくるのではないのでしょうか。

町長

近隣の自治体でも進

んでいるところがあります。本町としても将来を見据えて方向性を見出ししていきたいと思えます。

再質問

総合グラウンドに役場庁舎、消防署などを持つていくなど、スマートシティ構想も一つの案だと思います。

町長

大きな遊休地の活用について非常に苦慮しています。現状の施設に対しての方針をしっかりと示しながら、方向性を出していきたいと思えます。

投票環境の向上について

質問 高齢者など移動が困難な住民の投票を後押しするため、期日前投票所の増設や移動投票所の導入を検討すべきと考えます。

選挙管理委員長

期日前投票所、移動式投票所の増設は、二重投票等を避けるた

め、ネットワークシステムの導入、従事する職員が必要となることから現在のところ困難と考えています。

町民の生活を守る対策について

質問

物価や燃料価格高騰が続く中で心配されるのは暖房費の問題です。高齢者、低所得者が安心して冬を乗り越えていけるよう、更なる追加の支援をすべきではないでしょうか。

町長

非課税世帯、子育て世帯等の低所得の方々については、国や道が給付金など対策を講じていることから、現在のところ、町として追加の支援は考えていません。しかしながら、物価や燃料価格高騰の長期化が予想されることから、町民生活や地域経済の状況を十分に把握し、必要な施策を講じていきたいと思えます。

7月 臨時会議 7/20

受変電、計装などの設備を備えます。町長、担当課長より説明があり審議を行いました。

◆議会の議決に付すべき工事請負契約について、コロナ禍における原油価格・物価高騰対応に係る経費・補助金、および簡易水道事業特別会計の補正予算を原案可決

議会の議決に付すべき工事請負契約について

工

事は今の老朽化した施設に替わり、鉄筋

コンクリート地上2階建て延べ床面積790平方メートルの施設を建設するものです。導水ポンプ、膜ろ過、薬品注入設備、自家発電、

の商品券を支給。燃料や生産資材高騰影響を受けた農家に経営支援金を補助。農業に携わる人材確保のため事業体、産業団体、行政が連携して人材の呼び込みを図る事業の業務委託料。営農飲雑用水を利用する世帯の負担軽減のため利用組合に対する交付金。原油価格・物価高騰に伴う住民支援として全世帯に一万円の商品券を配布に係る経費、補助金が計上されました。

議員からの質疑では「下川町では環境に配慮した建物を作る。例えば新しい森林組合事務所はZEBとして設計されるが、この浄水場はどのように環境への配慮がなされているか。また地域の木材を使用しているか」との質問に対し、「鉄筋コンクリート造りでありZEBではない。玄関ポーチにカラマツ材を使用している」との答弁がありました。

その後採決に移り、全員賛成により原案可決しました。

下川町一般会計補正予算 (第4号)

コロナ禍での生活・暮らしの支援として住民税非課税世帯の高齢者等に一万円

灯油についての支援は検討したのか」に対し「配合飼料については国の事業で安定化基金がある。暖房灯油については、育苗段階で町がかなり助成をしているので、今回は行わない。しかし今後の価格情勢を注視していく」「人材の呼び込みを図る事業について、本来なら当初予算で計上するべきものであり、この人材を当座の働き手として期待するのかが、定住を想定しているのか」に対し「新型コロナウイルスの影響を甘く見ていて、緊急的に今回の補正予算計上となった。当座の働き手として考える」「養鶏業には国の安定化基金が適用されるのか。経営支援金の給付対象を認定農家に限ると、認定以外の小規模農家に『営農を辞めてください』との施策に受け取られかねない。また、商品券は全世帯ではなく、子育て世

議員からの質疑では「経営支援を認定農家に限定することは妥当か。認定農家以外にも給付することは検討したのか」との質問に対し「妥当と考える。認定農家には離農した農家の土地を引き受けて耕作することを期待して給付する」との答弁がありました。

「酪農家の配合飼料高騰、就農したばかりの農家でビニールハウスの暖房

帯や低所得者と制限を設けて効果を増やすべき」に対し「国の安定化基金は養鶏の工サにも適用される。小規模農家に『営農を辞めてください』ということではない。国の事業で子育て世帯や低所得者に支援があるが、価格高騰については全世帯が影響を受けている」との答弁がありました。

その後採決に移り、賛成多数により原案可決しました。

下川町簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)

町民および事業者への支援として水道料金の基本料を三か月間免除。それに伴い、歳入で水道使用料の減額、水道料金システム修正の委託料を一般会計繰入金を財源として増額計上するとの説明がありました。

その後採決に移り、賛成多数により原案可決しました。



【YouTube】QRコードを読み取ると本会議の映像が見られます。



(動画時間) 68分
3:36 議案上程

7月臨時会議の審議議案と議員の賛否（令和4年7月20日）

| 議案の件名・概要・結果 | | 結果 | 齊藤好信 | 中田豪之助 | 大西功 | 春日隆司 | 我孫子洋昌 | 菘谷春之 | 小原仁興 | 近藤八郎 | 議決日 |
|--------------------------|---|----|------|-------|-----|------|-------|------|------|------|-------|
| <input type="checkbox"/> | 議会の議決に付すべき工事請負契約について (下川浄水場建設工事 契約金額：13億1,230万円) | 可決 | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| <input type="checkbox"/> | 令和4年度下川町一般会計補正予算（第4号） 補正額：6,379万円 補正後の額：54億3,714万円 補正内容：原油価格・物価高騰対策事業に伴う扶助費の計上 など | 〃 | ○ | ○ | 欠 | × | ○ | ○ | × | ※ | 7月20日 |
| <input type="checkbox"/> | 令和4年度下川町簡易水道事業特別会計補正予算（第2号） 補正額：21万円 補正後の額：5億5,535万円 補正内容：水道基本料免除に伴う給水使用料の減額 など | 〃 | ○ | ○ | 欠 | × | ○ | ○ | ○ | | |

※議長は議事の進行を行うため、賛否の表明はしません。賛否が同数の場合のみ表明します。

下川町議会活動状況（令和4年5月1日～令和4年9月30日）

| | | | |
|-----------------------------|-----|--------------|-----|
| 定例会議 | 14日 | 脱炭素推進調査特別委員会 | 4日 |
| 臨時会議 | 4日 | 会議案件数 | 6件 |
| 本会議合計 | 10日 | 一般質問件数 | 17件 |
| 全員協議会 | 4回 | 緊急質問件数 | 0件 |
| 議会運営委員会 | 11回 | 文書質問件数 | 12件 |
| 総務産業常任委員会 | 2日 | 政策提言件数 | 0件 |
| 広聴広報特別委員会 (議会だより編集委員会含む) | 2回 | 議員研修数 | 1件 |
| 決算認定特別委員会 | 4日 | 議会だより発行数 | 2回 |



ことば

さい けつ
採 決・・・ 議長が議案などについて、出席議員に賛成、又は反対の意思表示を求め、それを集計することをいいます。



【YouTube】QRコードを読み取ると本会議の映像が見られます。



(動画時間) 59分
43:03 委員長報告(脱特)

下川町議会脱炭素 推進調査特別委員会 経過報告

下川町議会脱炭素推進調査特別委員会は、令和4年3月18日、令和3年下川町議会定例会3月定例会最終日の本会議において設置しました。この間、下川町議会における脱炭素の行動指針に関する決議や、特別委員会を3回開催、道内視察調査を実施してきています。

中間報告は
こちらから



◆二セコ町、当別町及び三笠市視察調査(令和4年7月5日、7日※6日は北海道町村議会議員研修会に参加)
二セコミライ(SDGs街区)事業について(二セコ町)
2050年二酸化炭素実質ゼロ表明を令和2年に行なっており、一番の核となるのが高気密高断熱の取り組みで、湿度温度変化の管理などを進めていく。高気密高断熱の取り組み順位として、①躯体の断熱性強化②省エネ設備の導入③再エネ設備の導入、この順番が鉄則である。

総合体育館への災害対応型

再エネ設備導入事業について(当別町)

総合体育館災害対応型再生可能エネルギー等導入事業は、環境省の「防災拠点等への再生可能エネルギー等導入推進事業補助金」を活用し、町内の防災拠点の中で最大級の収容人員のある総合体育館に、緊急時だけでなく通常時も活用できる再エネ設備を導入した。当初、太陽光パネルは屋根に設置する予定であったが、防水や強度の問題から壁面に変更した。実績から、屋根の方が発電量は多いが、冬は雪による照り返しにより、壁に設置している方が発電量が多い。

ゼロカーボンの取り組みについて(三笠市)

平成23年度から室蘭工業大学と連携して、UCCG(石炭地下ガス化)の実験に取り組んでいる。

HUCCG(ハイブリッド石炭地下ガス化)は、石炭や木質バイオマスを活用して可燃性のガスを生産し、発電や水素の製造を行う事業となっており、同時に水素製造過程で発生する二酸化炭素を農業利用や地下貯

留を行い、二酸化炭素実質ゼロを目指している。現在は、水素の製造から供給までの仕組みや水素の販売価格など、トータルでの実現性を評価する調査を進めている。



三笠市：
ゼロカーボンの取り組みについて担当者の説明



当別町：
総合体育館の災害対応型再エネ設備視察



二セコ町：
二セコミライについて担当者の説明

北海道町村議会議員研修会に参加しました

北海道町村議会議長会主催の「令和4年度北海道町村議会議員研修会」が7月6日に札幌市内の札幌コンベンションセンターで開催され、8名の議員が参加しました。研修講師である政治ジャーナリスト、泉宏氏から「参院選最終情勢分析と選挙後の政局展望」をテーマに講演をいただきました。今回の研修内容を今後の議会活動に生かしていきます。



研修講師の泉 宏氏



令和3年4月1日に施行された下川町議会基本条例により、議員は、通年議会を活用し、休会中（定例会議を開催しない月）においても主体的かつ機動的な議員活動に資するため、町政に関して、町長等に対し文書により質問を行うことができるようになりました。

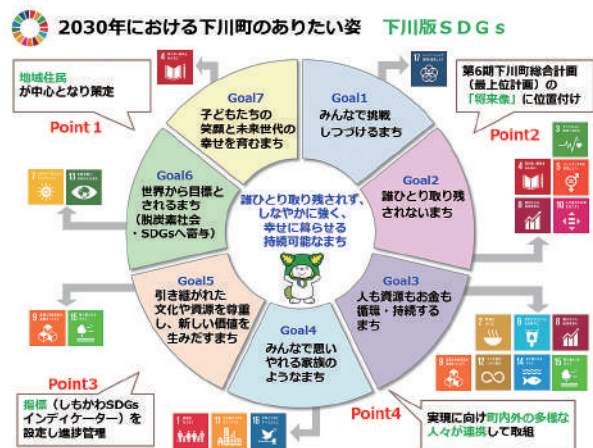
7月（8月は質問休止月としています）は4名の議員から計7問の質問の提出がありました。今号では、7月に提出した質問と回答の一部を掲載します。全ての質問と回答については、町のホームページへアクセスするか、次のQRコードを読み取ると見ることができます。



令和4年7月 文書質問及び回答

- 1 質問者 春日 隆司 議員
- 2 質問事項 総計見直しにおける政策評価について

| 質問の内容・要旨 | 回 答 |
|--|--|
| <p>去る7月5日から7日、脱炭素推進調査特別委員会として、議員研修に合わせ、二セコ町、当別町、三笠市における脱炭素に関する取組みなどについて調査を実施してきました。</p> <p>三市町ともに、下川町の循環型社会づくりの森林・バイオマスの取組について、「北海道一である、うちの町は20～30年遅れている、1歩も2歩も先を行っている。」など、外交辞令とはいえ、極めて高い評価をされていました。</p> <p>こうした中、下川町の現状と実態を見た時、このような評価と実態には、相当な乖離があると思います。一例として、50㏩×60年の循環型森林経営の現状、木質バイオマスボイラーから化石燃料ボイラーへの転換、木質バイオマスボイラーの故障による長期化石燃料使用、熱効率（熱ロス）の問題、再生エネの取組遅延、脱炭素社会への行動など。</p> <p>また、ゼロカーボン宣言にあっては、二セコ町R2年7月、当別町R3年3月、三笠市R3年12月に行い、各市町では脱炭素に向けて、強力なリーダーシップのもとで、具体的な取組みが進展しており、学ぶべき事例でもありました。</p> <p>こうした調査を踏まえ、外の評価と現在の下川町の実態は、ウサギと亀ではないが、先進市町からは相当な遅れを取ってしまったと考えるのは、私だけではないと思います。このことは、下川町の取組みなどを熟知している二セコ町民の方からこの度の「下川町の復活の雄姿を見たいと望んでいる」との声掛けでも明らかであります。</p> <p>そこで、総計の見直しにあたり、先行していた取組みがなぜ進展しないのか、原因は何なのか、何をなさねばならないかなど、次世代へつなげる持続可能な（SDGs）地域づくりのため、事業評価に加え、政策評価と検証をすることが、執行者の責務であると考えますが、いかがでしょうか。</p> | <p>本町では、これまで地域資源を活用しながら、経済・社会・環境の3側面の統合的な取り組みにより持続可能なまちづくりを進めてきたことで、各方面から高い評価をいただいていたと認識しております。</p> <p>その一方で、人口減少を起因とする地域課題は山積しており、それらを解決しながら、先人が創り上げてきた町の基盤を的確に未来世代に引き継ぐことが執行者としての私の使命であると考えているところです。</p> <p>地域課題の解決のため、毎年度実施しております行政評価意見や議会の提言、監査意見などを踏まえた総合計画の見直し方針を示すとともに、各種指標や今年度予定しております総合計画アンケート調査結果などにより政策検証を行いながら中期計画の策定に反映させてまいります。</p> <p>いずれにしましても、第6期下川町総合計画の将来像であります「2030年における下川町のありたい姿」の実現に向けて、地域課題の解決に向けて汗をかいてまいります。</p> |



議会活動の仕組み⑤

しよかんじむちょうさ

「所管事務調査」



状況」や「○○事業」のように庁舎内で説明を聞いて調査を行っています。その後、全委員で委員間討議を行い、行政の各分野における課題の解決に向けて、町長等の執行機関に対し、具体的な政策や施策を積極的に提案します。

所

管事務調査は、常任委員会と議会運営委員会が行うことができます。

下川町議会では総務産業常任委員会の一委員会制となっており、この委員会が「厚生」「産業」「文教」などの全部門を扱います。自主的にテーマを設定し、調査は町内のみではなく、道内外の他の自治体に出向き、議案審査の参考とするための調査を行っています。議会運営委員会も、議会の運営に関する事項について調査することができます。

町内での調査の場合、下川町議会では実際に現地を視察し、そこで担当課から説明を聞くことや、「財政

- 町内遊休地の現状
- 元町団地建設現場
- ふるさと交流館の現状
- 下川小・中学校の運営状況

○町立下川病院の経営状況などの調査を行っています。

これらの調査結果については、当該委員長が本会議で報告し、議会だよりや町のホームページに掲載しています。また、YouTubeでは委員長報告の映像も見ることができます。



議会モニターからのご意見・ご感想

議会モニターの方々から、議会活動についてご意見、ご感想を定期的にいただいております。

定例会議や、臨時会議、議会だよりについて寄せられたご意見などの一部を紹介いたします。

これらのご意見などを参考に、議会活動の活性化やよりよい議会運営につなげていきます。



| 質問の内容・要旨 | 回答 |
|--|--|
| L I N Eやツイッターなど、様々な情報発信を模索してほしい。 | コメント、リツイート、メッセージなど、議会としての対応に課題がありますが、引き続き検討していきます。 |
| 議会だよりは、文字が大きく、簡潔にまとまっていて見やすいが親しみやすさ重視で、イラストを増やしてはどうでしょう。 | 頁数が限られていますが、親しみをもっていただけけるよう、紙面の研究をしていきます。 |

編集後記

コロナ、コロナと毎日のように報道されてニュースで大騒ぎしていた頃からみると今ではかなり落ち着きを取り戻したように思います。

お祭りや人の交流も手探りながらも再開され、本町でもようやく平時へ向けて動き出してきた印象があります。

コロナウイルスの無毒化が進んできたと言われはじめ人流が活発になると、コロナに限らず、風邪やインフルエンザも蔓延してくるリスクが高まります。

国の施策としてもだんだん平時へと舵を切っていきますが、同時に個々での防御がますます重要になります。そんな冬の到来もすぐそこ。お体ご自愛ください。(小原)



議会広聴広報特別委員会
(議会だより編集委員会)

| | | | | |
|-------|----|----|-----|----|
| 委員 長 | なか | た | ごうの | すけ |
| | 中 | 田 | 豪 | 之助 |
| 副委員 長 | お | ばら | よし | おき |
| | 小 | 原 | 仁 | 興 |
| 委 員 | あ | び | ひろ | まさ |
| | 我 | 孫 | 子 | 昌 |

しもかわ議会だより

第198号

2022年(令和4年)

11月1日発行

発行 北海道下川町議会
編集 議会広聴広報特別委員会
〒098-11206
上川郡下川町幸町63番地

●電話番号(代表) 4-25511
●FAX番号(代表) 4-25517
●行政情報告知端末番号(直通) 4-2551108
●E-mail s-gikai@town.shimokawa.hokkaido.jp